

木知原の今昔!

13号:5・5・12

江戸時代初期 木知原村の様子

この資料はご存じの方も多と思います。(本巢町史の資料編に折り込まれている)

絵図は今流で言えば「納税申告書」と言ったものでしょう。

高辻とは江戸時代の税金のことで、延宝五丁巳(ヒトミ)年(1677年)木知原村の庄屋が「村の広さと土地の利用状況は絵図の通りですので納める税額はこれです」

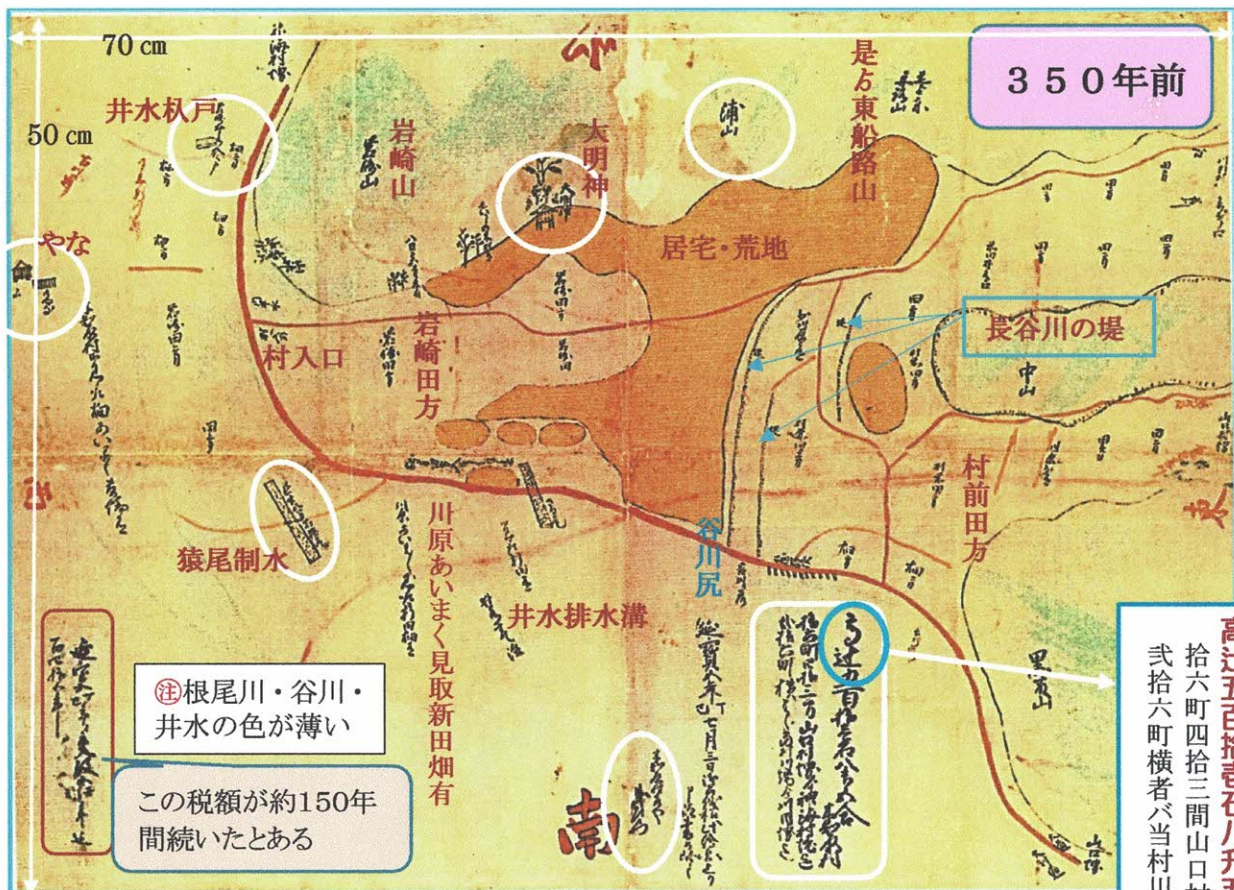
と戸田藩主(三代戸田氏西うじあき)に提出した木知原村の税額(石高)説明図である。

年貢算出の基となる地勢と田・畑・除地(納税免除地)等が漏らさず画かれている。そのため居室等は画かれていないが当時の木知原村の様子が分かる最古の絵図であり、居住地が浦山に集中していることや街道の多さ、また堤の数から長谷川が暴れ谷であったことなどが読み取れる。

ゴマの油と百姓は…から領民あつての藩政へ

重い税と軽い命の時代が長く続いた木知原村も藩主が戸田氏西の頃に新田開発が進んだり渡船場が開業したりするなどして村人の暮らしにゆとり

が生まれ来たたのでしょう。また他藩に先駆けて読み書きを習うゆとりも出てきたようである。



藩の命綱である税の申告制度で木知原がその対象村となったのである。これは、庄屋は勿論のこと村民の勤勉さや治安の良さが藩主に認められた証でもある。“外山郷の農民は早くから農業書を読み生産性の向上に努めていた”ともあるから“滞納の心配なし”の優等生の村だったのでしょ。

高辻五百拾壹石八升五合
木知原村
拾六町四拾三間山口村堺より神海村境迄
式拾六町横者巴当村川場より川内堺迄